



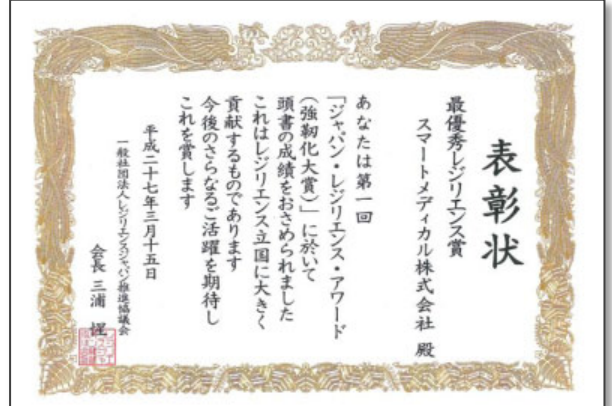
健康とこころを思いやる
スマートメディカル

プレスリリース

2015年3月16日
スマートメディカル株式会社

スマートメディカルの事業が 第一回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)で 最優秀レジリエンス賞を受賞しました!

スマートメディカル株式会社(本社:東京都千代田区 柴崎望社長)は、3月15日に仙台で一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会(本部:東京都渋谷区 三浦 惺会長 (日本電信電話株式会社取締役会長)が主催・募集した「ジャパン・レジリエンス・アワード2015」の最優秀レジリエンス賞(医療・保健部門)および、優良賞のダブル受賞を果たしました。



この賞は、安倍内閣が提唱している国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)に関連して、次世代に向けたレジリエンス社会を構築するために全国各地で展開されている“強靱化”(レジリエンス)に関する先進的な活動を発掘、評価し、表彰する制度です。

3月14日～18日に、天皇・皇后両陛下、安倍首相夫妻および18か国から賓客を招いて仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」の公式日程の中で行われた「第一回ジャパン・レジリエンスアワード表彰式」には、全国の自治体、事業者、NPO、教育機関などから提案された208件の事業の中から選抜された受賞者が参加しました。

(上位入賞者一覧 : <http://www.resilience-jp.org/20150227183804/>)

スマートメディカルは、①「日本人のメンタルを強靱化する ～音声感情認識技術を使った自殺予防と認知症対策～」(ICTセルフケア事業部:下地貴明取締役事業本部長)、および②「医療による国家強靱化と地方創生 ～次世代型多診療科ヘルスケアモール開発事業～」(PCC事業部:足立信也取締役事業本部長)の2本の事業提案を行い、それぞれ最優秀レジリエンス賞(医療・保健部門1社)、および優良賞(32社のうちの1社)を受賞しました。



国民の生命と財産を守り抜き、さらには日本の産業競争力を高め、事前防災・減災の考えに基づき「強くしてしなやかな国」をつくるための「国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)」に関する総合的な施策づくりや、その推進に寄与するとともに、できるだけ多くの国民の方に向け、国土強靱化の理解を促進し、行動を誘発していくことをミッションとしています。「国土強靱化基本計画」が円滑に達成されるよう、産、学、官、民のオールジャパンでその叢智を結集し、非常時のみならず平時での戦略的活用の方策を創造することにより、公共投資、民間投資が最大限に相乗効果を発揮し、レジリエンス立国を構築していくことを目的として設立されました。



健康とこころを思いやる
スマートメディカル

①最優秀レジリエンス賞(医療・保健部門)受賞

「日本人のメンタルを強靱化する - 音声感情認識技術を使った自殺予防と認知症対策 -」

ジャパン・レジリエンス・アワード2015 応募

スマートメディカル株式会社

将来像：クラウド上のメンタルケア・データベース

日本にもフィンランドの「ソーシャル・ウェブ」のような、コミュニティの医療・健康情報のクラウド・データベースを創りたいと構想しています。

日本人のメンタルの強靱化のために日本版のソーシャル・ウェブを構築し、メンタル状態を記録したライフログデータベースを集積したい。

このデータベースには、かかりつけ医や薬剤師、カウンセラーがアクセスでき、不調が長引いた時には、タイムリーに寄りそう「見守りコール」がかかります。

バーチャル・コミュニティによる自殺防止プログラムです。

スマートメディカルのメンタル解析技術は、子供から高齢者まで、毎日の発話データから心身バランスの不調を見つけます。

②優良賞受賞

「医療による国家強靱化と地方創生 一次世代型多診療科ヘルスケアモール開発事業」

ジャパン・レジリエンス・アワード2015 応募

スマートメディカル株式会社

医療：平時と緊急時の受け入れ態勢は

- わが国では診療所も病院も「急性期医療」を終えた後、すべての患者さんに対して「回復期医療」と「慢性期医療」を提供できる体制にはなっていません。
- スマートメディカルは、わが国医療制度の手本となったドイツにある機能に注目しました。

家庭医が初診し、専門医や病院を紹介

問題点

- ① 家庭医が初診機能を持ち、患者は病院を選べない
- ② 専門医や病院での受診に時間がかかりすぎる
- ③ 家庭医と病院の中間の役割をする医療機関がない

ドイツの日常型医療の例 (現状)

次世代型多診療科クリニック

メリット

- ① 立地
- ② 地域連携
- ③ 予防と応急救護機能

新機能

誰でも初診から病院で受療できる

問題点

- ① 病院に初診外来患者が殺到、医療費が削減できない
- ② 急性期のタイムリー受診には不便な立地
- ③ 病院と診療所の中間の役割をする医療機関がない

日本の日常型医療の仕組み (現状)

日本の将来の医療のためには、急性期医療と回復期・慢性期の医療連携をスムーズに行うための、診療所と病院の中間機能を持つ、まったく新しい医療機関が必要です。

- スマートメディカル株式会社 : <http://smartmedical.jp/>
- 所在地 : 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番8号 第2紀尾井町ビル4階
- 代表者 : 代表取締役 柴崎 望
- 設立 : 2010年11月26日
- 事業内容 : 医療系サービス開発
- 資本金 : 236,200,000円 (2015年2月現在 : 資本準備金を含む)

■お問い合わせ スマートメディカル株式会社 経営戦略室
 担当 : 小柳洋 Tel03-3230-4010 E-Mail:pr@smartmedical.jp